

ドブガイ



鳥取県指定準絶滅危惧種

小松谷川にて

(撮影：桐原真希)

昨年の秋のこと、会見地区の宮前から天萬を流れる小松谷川で生き物探しをしました。すると所々に黒い物が砂の間から見えていきます。おや？と思つて拾い上げてみると、それは淡水性の二枚貝である「ドブガイ」でした。地元の方は、この黒い大きな貝を、カラスガイやイシガイと呼んでいるようですが、今のところ、町内で流れのある場所で良く見られる貝は、ほとんどがドブガイだと思われまます。これらのグループのイシガイ科は、見た目がそっくりで詳しい図鑑で見比べないと区別が難しい貝です。カラスガイは、沼やため池などの流れが少ない環境で見られることが多く、時には子供の顔よりも巨大に成長することもあります。またカラスガイは、県の条例で保護生物に指定されており、生きている貝の捕獲や飼育が禁止されていますので、ご注意ください。

貝の方もしたたかで、貝が生まれ、たてほやほやの赤ちゃんの時には、クロキデイウムという名で呼ばれ、ドンコやヨシノボリなどのハゼの仲間のヒレにくっついて過ごします。こうして親元から離れて、新天地の川底で大きくなつていきます。私は、調査にゆとりがある時に、ドブガイの標識調査をしています。ちよつとかわいそうですが、近所の水路や東長田川見つけたドブガイの裏と表に、彫刻刀で削つて通し番号をつけます。そして採集日と長辺と短辺の長さを記録し、元の場所に戻します。そして再び同じ貝が見つかった時、移動範囲や寿命の目安も調べることができるのです。

もし、印のついてる貝を見つけたら是非教えてくださいね。



標識ドブガイ

自然観察指導員 桐原真希